

4 定山溪の特性と現状分析

(1) 特性と強み

定山溪は、支笏洞爺国立公園の区域に立地し、豊かな自然に囲まれています。山々に囲まれた溪谷には豊平川が流れ、春には淡い緑の移り変わりを楽しむ春紅葉を、秋には色鮮やかな紅葉を見ることができるなど、四季折々の自然の表情を感じることができます。

近くに、一般の方が容易に行くことのできる道内唯一のアーチ式コンクリートダムである豊平峡ダム、道内で2番目の高さを誇る定山溪ダムを有し、札幌市194万人の水道の大半を供給しています。高さ100mを超える多目的ダムが2つもある政令指定都市は札幌市だけで、豊平峡ダムの定山湖はダム湖百選に、定山湖上流の森は水源の森百選にも選ばれています。

豊かな森と水資源を有するため、定山溪温泉の源泉は自然湧出にもかかわらず豊富に湧き出ており、湯温も高温です。定山溪には、定山溪温泉・小金湯温泉・豊平峡温泉の3つの温泉があり、それぞれが近接する立地環境にありながら異なる泉質を楽しむことができます。

このような自然環境でありながらも、札幌市中心部から車を利用して約1時間で訪れることができ、近代的で快適なホテル・旅館が多く、都市型の温泉観光地であるともいえます。

保養所などを除くと、ホテル・旅館は、定山溪温泉に15軒、小金湯温泉に2軒あり、宿泊や日帰り温泉として利用できます。

自然に囲まれた定山溪では、札幌国際スキー場や登山、カヌー、果物狩り、パークゴルフなどのさまざまなアクティビティを楽しむこともできるほか、地形を生かしたパン屋やカフェなどの新たな魅力となるお店もみられるようになっています。

- ・ 支笏洞爺国立公園に立地する豊かな自然
- ・ 四季折々の表情を味わうことができる自然
- ・ 札幌市街地から1時間圏内の都市型温泉観光地
- ・ 高温で湯量も豊富な自然湧出源泉（定山溪温泉）
- ・ 泉質の異なる3つの温泉地の立地
- ・ 2つの大規模なダムやダム湖を有する環境
- ・ 老若男女が楽しめるさまざまなアクティビティ
- ・ 新規出店による新しい需要の可能性

(2) 現状分析

① 宿泊者数の減少、客層の変化

定山溪は、札幌の奥座敷として発展してきましたが、近年では、個人旅行への旅行形態の変化や団体利用の減少により、宿泊者数がピーク時と比べて大きく減少しています。また、今後の人口減少や高齢化などにより国内客のさらなる減少が懸念されます。一方、アジア圏からの海外客は大幅に増加しています。

② 完結型の大型ホテル群

定山溪温泉は、昭和 40 年代の高度経済成長に伴う旅行の大衆化などにより、大型旅館・ホテルの建設が始まり、現在の大型ホテル群の温泉街の姿となりました。

旅行形態が個人旅行へシフトしていく中、ホテル完結型の宿泊利用では様々なニーズに対応しきれなくなってきました。

③ 温泉施設などの老朽化

都市型の温泉地でありながら、定山溪の中央を流れる豊平川沿いを中心に立地するホテル・旅館などの建物及び、河川沿いの温泉施設、散策路、足湯、サインなどの老朽化が進んでおり、維持管理も行き届いていないため寂れた印象を受ける箇所もあります。また、老朽化やサイン不足などにより来訪者が利用する際に利用しにくい箇所もあります。

④ 温泉情緒や定山溪の顔となるような特徴的なイメージの弱さ

定山溪はかつて奥座敷として栄え、温泉情緒や温泉街らしさを感じることができましたが、現在では、温泉街の喪失や温泉らしさを感じる街並みや施設、要素などの低下により、温泉地としての印象が感じられなくなっています。

また、他の温泉地と差別化が図れるような、定山溪の顔となる代表的・特徴的なイメージが創出されていません。

⑤ 空き店舗や空き施設の増加

定山溪には、国道 230 号や定山溪中央線を中心に、ホテル・旅館をはじめ、飲食店等の店舗がありますが、近年では、ホテル・旅館や保養所の空き施設や道路沿線の空き店舗が増えています。

⑥ 国道 230 号の拡幅

定山溪の主要幹線道路である国道 230 号は、片側 2 車線の拡幅整備の計画があり、定山溪を取り巻く交通環境が大きく変化します。

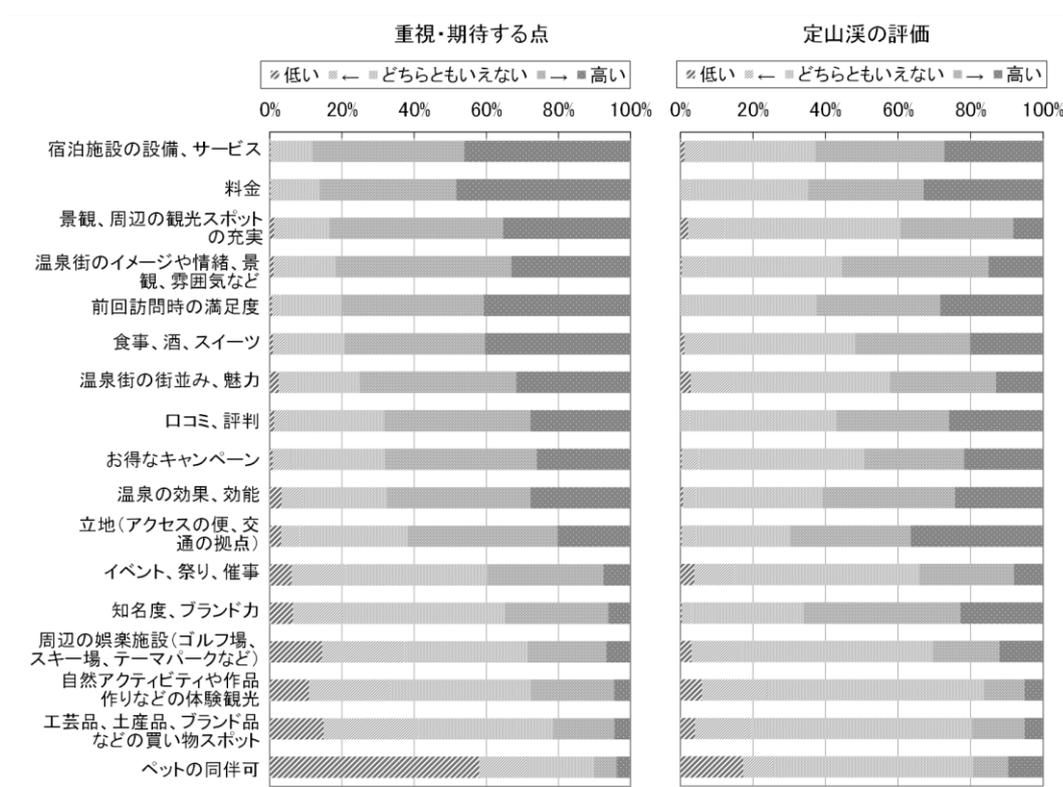
これにより、交通混雑が解消され、快適で安全な交通が実現し、アクセスの向上による交通量の増加など新たな観光需要の喚起につながると期待されます。

また、拡幅に伴う沿道の施設や店舗の建て替えや移転により、街並みが大きく変わる可能性があります。

⑦ 温泉以外の+αの魅力の潜在化

全国の人気のある温泉地では、温泉のほかに、「食事」や「土産」、「散策」、「外湯巡り」、「体験」などの魅力が点在し、それが観光地としての人気となっていますが、定山溪には温泉以外の+αの魅力がたくさんあるものの、まだ十分には知られておらず、活用しきれれていません。

【温泉地・宿泊地選択の際に重視する点と定山溪の評価】



※「温泉地・宿泊地選択の際に重視する点」は、過去3年間に定山溪への宿泊を検討したが、宿泊しなかった人を対象としたウェブアンケート、「定山溪の評価」は宿泊者へのアンケート。

出典：定山溪の魅力に関するアンケート調査報告書 平成25年3月（札幌市）

⑧ 定山溪までの交通アクセス

市民にとって、札幌中心部から1時間圏内にある自然豊かな温泉地は、定山溪の魅力の一つであり、強みでもあります。

一方、市内中心部に宿泊することが多い市外からの観光客にとっては、目的がない限り、遠い立地にあるともいえます。

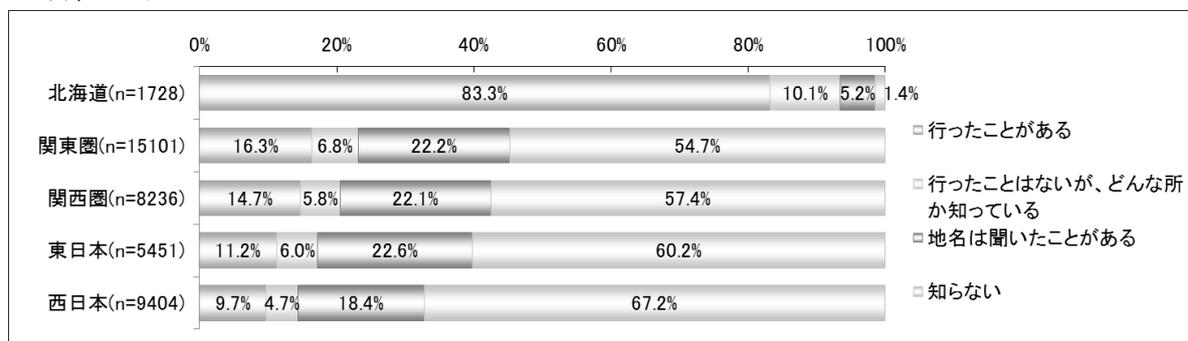
定山溪までの移動手段は自家用車が主となっており、公共交通機関としては、JR 札幌駅など発着のかっぱライナー、または路線バスとなっています。

⑨ 定山溪及び観光資源やアクティビティなどの認知度不足

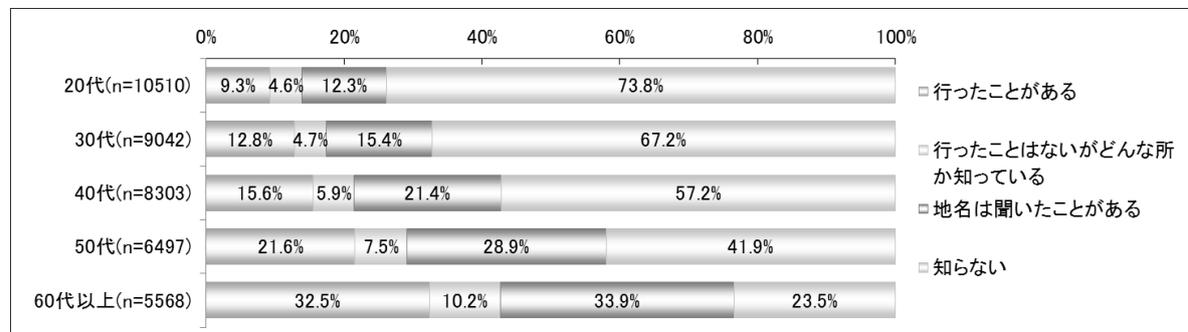
平成 24 年度のアンケート調査によると、道外在住者や、若い世代の定山溪に対する認知度が高くありません。また、定山溪で楽しむことができるアクティビティなどもあります。それらの認知度も低く、市民の多くには知られていない状況であり、情報発信が不足しています。

【定山溪の認知度】

<居住地別>



<年齢別>



※全国の 20 歳以上の方を対象としたウェブアンケート

出典：定山溪の魅力に関するアンケート調査報告書 平成 25 年 3 月（札幌市）

⑩ 定山溪全体の観光魅力アップの機運の高まりと人材不足

定山溪には大小のホテル・旅館があり、近年では、一般社団法人定山溪観光協会を中心として、四季のイベントの開催や定山溪温泉 PR 隊長かっぱんの活用など、定山溪全体での取組が進められ、ホテル・旅館同士の連携が図られてきています。

また、定山溪温泉の周辺には、札幌国際スキー場や豊平峡、小金湯温泉、八剣山などの観光資源や集客施設があります。それらの広域的な集客や定山溪全体としての取組に向けた連携やネットワークも増えつつあります。

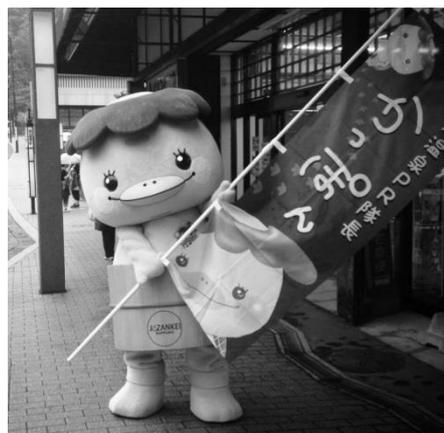
さらに、南区全域が「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」となっており、一般社団法人定山溪観光協会をはじめとする南区内の各種団体の連携で、雪あかりなど魅力向上の取組や、各種媒体を活用した情報発信が進められています。

しかし、地域住民の高齢化などに伴い継続的な取組が困難になっているという声もあり、今後の定山溪の観光魅力アップの取組を担う人材の不足が懸念されます。

【定山溪温泉 PR 隊長かつぼん】

一般社団法人定山溪観光協会から「定山溪温泉 PR 隊長」に任命され、さまざまなイベントなどで定山溪温泉の PR を行っています。平成 24 年 7 月には札幌市南区から特別住民票が交付されています。

出典：一般社団法人定山溪観光協会ホームページ



5 定山溪の観光魅力アップに向けた課題

定山溪観光の現状から、今後の定山溪の観光魅力アップに向けて、以下の課題への対応が求められます。

① 宿泊者数の減少、客層の変化への対応

団体客による1泊2日旅行が減り、個人客の多様なニーズへの対応がより一層求められます。また、今後予想される人口減少や高齢化に伴い、国内観光客が減ることが懸念され、2泊以上の滞在型の利用を増やすことが重要となります。

海外からの観光客は増加傾向にありますが、サインをはじめとした環境整備など、海外客への対応は不十分な状況といえます。

② 拠点性と周遊性の向上

定山溪温泉として、各ホテルによる囲い込み型からの脱却を図り、「食」をはじめとする、ホテルの外での楽しみや魅力を創出し、既存の資源を活用することが重要です。土産店や茶屋、カフェなどの店舗の集積や温泉街、さらには来訪者が定山溪に来たら必ず行くような定番のスポットなど、拠点性と周遊性を高めることが求められています。

③ 温泉施設の老朽化などへの対応や環境整備

観光地の建物や観光施設、散策路、看板・サインなどの老朽施設は、来訪者の受ける印象を左右し、来訪者を迎え入れるホスピタリティにも大きく影響を与えます。

定山溪温泉には、老朽化した施設や維持管理が行き届いていないものが多くあり、それらの改善が求められています。

看板・サインについては、表記内容や方法、配置箇所などを適切でわかりやすくすること、温泉観光地としてのおもてなしについては、来訪者が利用しやすい清潔なトイレや駐車場の整備、美化活動、冬季の除排雪などが重要な要素となります。

都市型の温泉地として、美しくおしゃれな温泉地が求められており、これらの施設の老朽化への対応やまちとしての環境整備が必要となっています。

④ 温泉地らしいイメージの創出

別府温泉の湯けむり、草津温泉の湯畑など、国内で人気の高い温泉地では、温泉資源と地域特性を生かした温泉地らしい景観や施設があります。

しかし、定山溪温泉は、温泉街の喪失やホテルの建物の近代化などによって温泉地らしさが失われつつあるほか、温泉地らしいイメージを醸し出す施設が少ない状況です。

そのため、足湯などの整備や情緒を感じさせる湯けむりなどの演出による、温泉街らしさや温泉地の雰囲気づくりが求められます。また、温泉情緒を感じさせる要

素としては、「和」の雰囲気や浴衣を着てそぞろ歩きできる温泉街としての演出が重要です。

ハード整備と併せて、温泉街としてのソフトメニューの実施などにより、温泉地らしいイメージを創出することが必要となっています。

⑤ 空き店舗や空き施設、空き地への対応

現状、定山溪には空き店舗や空き保養所、廃業したホテルなどが見られます。また、国道拡幅に伴って沿道の商店などの移転や転出により空き地が発生することも想定されます。

空き店舗や空き保養所はまちの景観や来訪者のイメージにも影響があり、寂れた印象を与えてしまう恐れがあるため、景観悪化の抑制、さらには、空き店舗を活用したにぎわいづくりなどの新たな取組を進めることが求められます。

⑥ 国道拡幅に合わせたまちづくり

札幌中心部と結ぶ定山溪の主要幹線道路である国道 230 号の拡幅整備に伴って 4 車線道路になることにより、アクセスの向上による交通量の増加など新たな観光需要の喚起につながると期待される一方、通過型の交通量が増加し、定山溪への立ち寄りが減少することを懸念する向きもあります。また、沿道の施設や店舗の建て替えや移転が必要となります。

そのため、定山溪への出店の促進や温泉街の入口としてのゲート機能を高めることが求められます。

⑦ 定山溪エリアの魅力や観光メニューの増大と連携強化

定山溪といえば温泉のイメージがまず思い浮かびますが、定山溪エリアには、温泉だけではない楽しみ方や魅力がたくさんあります。

個人旅行の旅行形態や交流・体験型への嗜好の変化などを踏まえると、現状のホテル完結型から滞在型・体験型メニューの利用の拡大に向けて、札幌国際スキー場や豊平峡、小金湯温泉、八剣山などの観光資源とネットワークを構築し連携した観光魅力アップを進めることが必要となっています。

⑧ 交通アクセスの充実や魅力強化

現状、1 日数便の直行便が運行されていますが、定山溪での周遊やアクティビティ利用などを考慮するとともに、かつて定山溪鉄道が通っていた歴史なども活用して、定山溪までの移動やアクセスの魅力強化が求められます。

また、定山溪エリアの回遊促進に向けては、定山溪エリア内の周遊バスなどの交通アクセスの強化も検討が必要となります。

⑨ 定山溪の認知度の向上

定山溪には、温泉はもちろん、豊かな自然やアクティビティ、さまざまな魅力が点在していますが、札幌市民や道内客には、温泉として認知されているものの、周辺の資源や魅力の認知度は高くない状況です。

また、道外や海外に関しては、定山溪自体の認知度が低く、誘客を図るためにはまず認知度を高めることが求められます。

そのため、札幌市民、道内、道外、海外に対して、ターゲットに合わせた定山溪の魅力の情報発信やプロモーションを行うことが必要となっています。

⑩ 定山溪の観光魅力アップを担う人材や組織の育成

定山溪の魅力アップに向けて、温泉街の魅力の磨き上げ、さらには周辺の観光資源との広域的に連携した取組、にぎわい創出のためのソフト・ハード両面の取組、それらを踏まえた定山溪のプロモーションを連動させながら展開していくことが重要となります。

近年では多くの温泉地や観光地でボランティアガイドによるガイドツアーや観光案内、担い手の育成が取り組まれています。定山溪ではボランティアガイドに係る取組が進められていません。

また、空き店舗の活用、ホテル・旅館以外の新たな事業の参入や展開の促進という観点では、温泉観光地としてのエリアマネジメントも求められてくることが考えられます。

そのため、観光魅力アップを担う人材や、外部から支えてくれるファン・サポーター、さらには地域をマネジメントする組織や機能を育成することが求められます。